

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（8月分）

ルーマニア・アメリカ大学

白越 明

<はじめに>

8月も終わりに近づき、長かった夏休みも後半に差し掛かってきました。ブカレストは暑いですが、30°より少し高いくらいの気温で、例年に比べると涼しいらしく、そんなに暑すぎて溶けそうという感じではないです。本当はインターンシップとかいろいろやりたかったのですが、調整がうまくいかず、無駄に8月を過ごしてしまうのでは…と心配していたのですが、周りの人たちのおかげでかなり充実した時間が送れました。

<サマースクール>

ルーマニア・アメリカ大学の日本語研究センターがやっている、日本語と日本文化のサマースクールに私も参加させて頂きました。このサマースクールは、日本語や日本文化を学びたいルーマニア人のために、毎年行われているものだそうです。私は日本人ですが、ルーマニア人目線から日本文化を見てみたかったということもあり、一緒に参加させてもらうことにしました。日本人は私と、もう一人日本語の先生のみで、あとはみんなルーマニア人でした。

今年のサマースクールは、クルージュ・ナポカというルーマニアの北西の方にある街で行われました。私は、ブカレスト以外の街に行ったことがなかったので、違う街に行くというだけでわくわくしていました。クルージュまでは、ブカレストから飛行機で1時間ほどでした。オーストリアやハンガリーなどの影響を強く受けているらしく、街並みもブカレストとはかなり違っていておもしろかったです。



<生け花体験>お花がもったいなくていっぱい使っていたら、私のはフラワーアレンジメントみたいになってしまいました。(笑)

サマースクールは、福井大学も交換留学の提携校として結んでいるバベシュ・ボヤイ大学で行われました。生け花、合気道、寿司づくり体験、ビジネス相手としての日本などのレクチャーや、日本語の授業などがありました。私は、主に日本文化のほうのクラスを受けたのですが、とても興味深かったです。なぜなら、日本文化をルーマニアの人から教わったからです。いつもは教える側なので、日本文化を教えても

らうというのは、少し変な感じがしました。しかし同時に、いかに自分が日本のことを知らなかったのかということにも気づきました。私は、武道なんて体育の授業以外にやったことがないし、茶道や華道も全くと言っていいほど触れたことがありませんでした。なにか日本らしい、海外の人に見せられるような特技やスキルがあればよかったなあと思います。日本に帰ってから、お茶とか生け花を始めてみたいと思い始めました。

また、5日間くらいずっとルーマニアの人たちと行動していたので、新しいルーマニアの人々の一面を知ることができました。このサマースクールで特に感じたのは、会話のなかで時折垣間見えるルーマニアの人々の差別的な感情でした。クルージュはブカレスト以上にハンガリー人が混ざっているらしく、その人々に対するルーマニア人の差別的発言や、クルージュのルーマニア人に対するブカレストの人々の自分たちの方が優れているというような発言をよく耳にしたからです。しかしこれはルーマニアに限ったことではないと思います。日本人でも、例えば日本にいる外国人を差別的な目で見たりする人がいるし、都会の人が田舎を馬鹿にする発言を聞くことも珍しくはないです。こういう感情は、家族とか周りの環境によって形成されているものだと思うし、簡単には変えられないと思います。悲しいようだけど、ルーマニアで生活していくにあたって、このような人々の感情を理解し、うまく付き合っていく必要があると思います。



<寿司作り体験>日本人だからといって、寿司を作るのがうまい訳ではないようです。笑



授業のあとにみんなで行ったボタニカル園での一枚。
お気に入りです。

めに通訳してくれたり、レストランでのオーダーのときもいつも助けてくれました。私がいると、みんなルーマニア語ではなく英語で話そうとしてくれて、やはりみんなの英語力の高さにも関心していました。

このサマースクールでは、たくさんの新しいルーマニア人の友達を作ることができました。ほとんどの参加者が高校生や大学生で、下は14歳から上は30歳の人までいました。日本のような年齢による上下関係がない（少なくとも私にはそう見える）ので、みんな仲良くて和気あいあいとした雰囲気でもとても楽しかったです。日本に興味があるというのもあるだろうけれど、みんな私にすごく優しくしてくれて、ルーマニア語が話せない私のため

今回のサマースクールを通して、もっとルーマニアの人々のことを深く知ることができたし、日本文化についてももっと興味が湧きました。それから、同じルーマニアでもクルージュはブカレストとは全く違ったので、これからルーマニアの他の街にもいっぱい行きたいです。



クルージュの街並み。ブカレストとは、全然違います。

<新しいアパートについて>

新しいアパートで一人暮らしをはじめて一ヶ月が過ぎました。生活には慣れてきたのですが、やはり面倒くさいのはお金の支払いです。毎月、家賃は大家さんに、光熱費はアパートの管理人に、Wi-Fiはネット会社に払いに行かないといけません。さらに月々に使用したお湯と水の量を自分で調べて、それも提出しなければならないようです。日本では銀行口座引き落としが一般的ですが、それはこちらではあまりポピュラーではないそうです。さらに私はルーマニア語が分からないので、相手が英語を話せない人だとかなり苦戦します。そういうときはいつもみんなに助けられているので、一人では生きていけないんだなということを常に実感しています。慣れるまではいろいろ大変だけれど、これがルーマニアで一人暮らしをする醍醐味だと思って頑張って生きていきたいです。

<まとめ>

8月が終わり、もう夏から秋に移り変わろうとしています。日本の友達が、“平成最後の夏”だと言って、花火や海を楽しんでいて、正直すごく羨ましくて、夏休み日本に帰ればよかったかなあと思ったりもしていました。しかし、ふとといったいどれくらいの人が平成最後の夏をルーマニアで過ごしたんだろうかと思いました。おそらくほんとに数人でしょう。“平成最後の夏をルーマニアで過ごす”こっちの方がかなりスペシャルなんじゃないかと気づきました。私は他の誰とも違う夏を送ったと自負しています(笑)だから今は、夏休みに日本に帰らなくて良かったなと思います。これからルーマニアで過ごす、“平成最後の秋と冬”も他の誰とも違う経験をしていきたいです。